

事業計画書

<p>1 事業名称</p>	<p>軽度認知障害（MC I）および認知症予防を正しく知るための啓発事業IV</p>
<p>2 協働事業の内容及び実施方法</p> <p>(1)事業の目的</p> <p>(2)事業の内容</p> <p>*実施体制や実施手法を含めて記入すること。</p>	<p>区民や地域の人達が、認知症予備軍とも言われている軽度認知障害（MC I）についての正しい理解と、発症の遅延等、将来少しでも認知症にならないようにするための予防知識を身につけ、早い段階で行動を起こすことで、これからも地域で安心して暮らせるよう、啓発と支援活動をおこなう。</p> <p>世田谷区の人口約92万人、うち高齢者人口約19万人（総人口の約20%）、その中で認知症高齢者数は約2万4千人で、将来推計では今後も増える見込みである。また、認知症予備軍である軽度認知障害（MCI）の人も同数存在すると言われている。</p> <p>軽度認知障害（MCI）は「早期の気づき・早期の対応」が大切と言われ、正しい予防や進行抑制プログラムに参加すれば、その半数は認知症に進まなかったり遅らせることが出来、何もしなければ、半数は認知症になるであろうと言われている。</p> <p>このような状況の中、情報や知識を得るため、当NPO法人が近年主催する区民向けのMC I勉強会は人気が高く、区民の認知症予防への関心の高さが伺える。</p> <p>上記の点からも、多くの区民がMC Iの正しい知識を得て、認知症の予防につながるよう啓発活動の機会を多くつくる必要性を感じ、本事業をスタートさせた。</p> <p>本事業4年目、協働事業最終年度となる今年度も「啓発」「相談」「支援」の3つの柱で活動する。特に今年度は、もの忘れに不安を持つ人への支援の充実を図るため、新たなプログラムを計画する。</p> <p>A. 軽度認知障害(MCI)勉強会(4年目継続開催) [MC Iの基礎知識と認知症予防のために出来ることなど、受講者参加型勉強会]</p> <p>MC Iの正しい理解と認知症の予防知識を日常生活の中に取り入れ行動してもらうことを目的とした勉強会を、今年度も引き続き開催する。今年度も、講話と脳トレ・運動を組み合わせたプログラムを計画し、知識を身に着けただけで終わりにせず、予防行動のきっかけになるよう支援をしていく。</p> <p>講 師 : 浅見大紀 (臨床心理士) 開催方法/開催数 : 区内会場開催 (3回) 参加対象者 : 区民 (区在学、在勤者も可能) 参加人数 : 50名 (1回あたり) 広報活動 : ・チラシ配布 (区関連施設、語らいの家関係者など) ・区報「区のおしらせ せたがや」掲載 ・ホームページ など 申し込み : 電話・FAX (語らいの家)</p> <p>B. 認知症予備群の人のための相談会 (3年目継続開催) [もの忘れに不安を感じるようになった本人、および、家族のための相談会]</p> <p>これからどのように暮らしていけばよいか、不安を抱えている人達が相談会を通して安心した生活を送るきっかけになるよう、今年度も開催する。</p> <p>アドバイザー : 浅見大紀氏 (臨床心理士) 開催方法/開催数 : 区内会場開催 (3回) 少人数グループ相談方式 参加対象者 : もの忘れに不安を感じる本人、家族</p>

		<p>参加人数 : 10名 (1回あたり) 広報活動 : ・チラシ配布 (各あんしんすこやかセンター等) ・MC I勉強会での案内 申し込み : 電話・FAX (語らいの家)</p> <p>C. もの忘れが気になる人のための交流イベント (新規開催) [楽しみながら、こころとカラダ・脳を元気にする、交流イベント]</p> <p>MC Iの人やもの忘れに不安を持っている人が「認知症にすまないようにするためには、これからどうしたら良いか?」「安心して地域で暮らしていくためには、どうしたら良いか?」の受け皿の一つ (支援の一環) として、交流イベントを今年度新たに開催する。</p> <p>MC I勉強会の最後に講師の浅見氏が、もの忘れの「予防」よりも大切なことは「人生を楽しむこと」である、と参加者に伝えている。自分が楽しいと思える環境に身を置いていけば、自然にこころにもカラダにも脳にも良い循環ができる、ということ伝えていく。</p> <p>人生の楽しみ方は人それぞれ様々あるが、「皆が集まって笑いのある楽しい時間を過ごせたら、もの忘れの不安を忘れて“人生を楽しむ”ことへの一歩に繋がるのでは」と考える。また、もの忘れに不安を持つ人達がこれから安心して暮らすためには、「地域での横の繋がり」を作ること大切と考える。</p> <p>このような背景のもと、今回はトライアルの意味も含め、地域での交流イベントとして開催する。</p> <p>開催方法/開催数 : 区内で会場開催/1回 イベント内容/ (具体的内容は検討中) 横の繋がりが出来るようグループで楽しむ内容と、全員で一緒になって楽しむ内容を盛り込む予定。</p> <p>参加対象者 : 区内在住のMC Iの方、もの忘れに不安を持つ方 参加人数 : 50名~70名 広報活動 : ・チラシ配布 (勉強会・相談会等の関連事業開催時、過去MC I勉強会に参加された方、語らいの家関係者など) ・あんしんすこやかセンター等への働きかけ ・区報「区のおしらせ せたがや」掲載 ・ホームページ など 申し込み : 電話・FAX (語らいの家)</p>
	<p>(3)令和5年度 事業完了予定日</p>	<p>令和6年2月29日</p>
<p>3 協働の 必要性 及び 役割 分担</p>	<p>(1)区の担当課</p> <p>(2)協働する意義・必要性</p>	<p>高齢福祉部 介護予防・地域支援課</p> <p>本事業は、軽度認知障害 (MCI) について区民が正しく理解し、早い段階から認知症にならないよう、住み慣れた地域で安心して暮らせることを目的とする、早期対応及び早期支援の取組みである。</p> <p>世田谷区で施行された「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」では、認知症になってからも住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる地域づくりの推進を目指し、区が取り組む施策の一つとして、「認知症 (軽度認知障害を含む) の早期対応及び早期支援」を掲げている。区と協働し実施することで、軽度認知障害 (MCI) の普及に対する強い発信力と、長期的な視点での働きかけが可能になると考える。</p> <p>また、もの忘れに不安を持つ人達が早い段階で行動を起こせるよう、支援の取組みをおこなうためには、区の豊富なサービスや資源の活用が不可欠と考える。</p>

		<p>更に、今後地域の中で活動の輪を広げていくためには、あんしんすこやかセンターやまちづくりセンターなど、地域の拠点への働きかけも必要と考える。</p> <p>以上の理由から、本事業は区と協働して実施する意義があると考えます。</p>
	(3) 役割分担	<p>提案団体</p> <ul style="list-style-type: none"> 各プログラム企画立案、スケジュール管理 講師（アドバイザー）依頼、コーディネート チラシ、参加者配布物の作成 参加者募集のための広報活動・参加者の確保 開催当日の会場運営
		<p>区担当課</p> <ul style="list-style-type: none"> 各プログラムに対する全体アドバイス、活動調整 事業者向け研修（プログラムコーディネート・開催当日の運営） 相談会参加者の参加後の支援（介護予防に関する各種プログラムの案内など） 参加者募集のための広報活動・参加者の確保 会場の確保 開催当日の会場運営
	(4) 地域の団体との連携	世田谷グループホーム連絡会、世田谷区介護サービスネットワーク
4 協働の成果・効果	(1) 期待される具体的な成果や区民・地域への波及効果及びその測定方法	<p>(団 体)</p> <p>■成果・効果・波及効果</p> <p>軽度認知障害（MCI）は早期の気づき・早期の対応が大切と言われている。正しい知識や情報を得る機会を多く作ることで、もの忘れに不安を感じた人が、早期に適切な行動をとるきっかけが出来ると思われる。</p> <p>また、認知症になることに漠然と不安を抱えている人達に対して、正しい知識や予防策を伝え、相談の場を設け支援につなげることは、安心・安定した生活を送る手助けになると考える。</p> <p>MC I 勉強会等の啓発プログラム開催後に「親と情報を共有したい」「親が積極的に行動できるよう働きかけたい」「親の介護に役立てたい」という子供世代からの声や、地域活動のリーダーから「知識を役立てたい」という声も頂いている。このようなことから、世代を超え周囲の人へ波及していくことも考えられる。</p> <p>■測定方法</p> <p>各プログラム、参加者アンケートを実施する。 アンケート結果を通して、成果を図っていく。</p>
		<p>(区担当課)</p> <p>■成果・波及効果</p> <p>認知症は、早期発見・早期対応が必要と言われているが、認知症の前段階である軽度認知障害（MC I）は、認知症と比較すると認知度が低く、知識や情報を得る場が少ないため、本事業で普及啓発を行うことで、区民が軽度認知障害（MC I）を正しく理解し、認知症に対する備えを考えるきっかけとなることが期待できる。</p> <p>認知症に関する様々な活動によって長年培ってきたノウハウや専門性を持つNPO法人語らいの家と協働し事業を展開することで、もの忘れについて不安を抱える区民のニーズに沿った内容の事業展開ができる。</p> <p>また、もの忘れに不安を持つ区民がこれからも地域の中で安心して暮らすためには、事業への参加をきっかけにし、その後地域とのつながりを作ることも重要である。事業の中で、もの忘れに不安を持つ人同士が集まり、地域の中で横のつながりを持つことで、認知症への不安や予防に縛られず、安心して自分らしく地域で暮らしていけるようなきっかけづくりとなる効果が期待される。</p>

[令和5年度提案型協働事業 様式]

		<p>■測定方法 各プログラム参加者にアンケートを実施し、評価を行う。</p>
	<p>(2)事業の成果の活用方法、将来の展開</p>	<p>(団 体) 軽度認知障害（MC I）及びもの忘れ予防関連の活動は、今後も必要であり長期的な視点で活動を考えている。MC I 勉強会や相談会、交流の場づくりで参加者から頂いた意見や感想を活かしながら、引き続き支援を継続していくとともに、当NPO法人が長年行っている、認知症家族相談会、認知症カフェなど、認知症本人や家族の支援活動を核に、もの忘れに不安を持つ人の交流の機会を広げていきたい。</p> <p>(区担当課) MC I 勉強会や相談会の参加者からいただく意見や感想は、区民がどのような「啓発」「相談」「支援」の場を求めているかを把握する貴重な機会であり、区として、もの忘れに不安をもつ区民が今後地域へつながる仕組みをどのように作っていくかを検討するための資料として活かしていく。</p>
<p>5 その他</p>	<p>*提案する事業と関連する団体の特徴、専門性、実績、提案、事業実施に向けたアピールなど</p>	<p>『その人がその人らしく、いつまでも安心して暮らせる』を理念として、法人設立より、認知症に対する地域への啓発活動を行っている。 法人の柱となる認知症を専門とした介護保険事業とともに、認知症家族支援、認知症啓発活動等、認知症本人および家族を支え、支える人達を育成する活動を行っている。 協働事業により、区民や地域の人達が認知症とともに安心して暮らせるサポート体制が、今以上に整えられることを期待する。</p>

※昨年度に提案型協働事業を実施した団体は、次のページもご記入ください。

※昨年度に提案型協働事業を実施した団体のみご記入ください。

	<p>(1) 昨年度の協働事業の効果・実績</p>	<p>昨年度は、普及啓発及び支援の充実と相談会の継続をポイントに、8回のプログラム開催を実施し、担当課・法人双方の強みを活かし協働したことで、どのプログラムも参加者から良い評価を頂いた。</p> <p>普及啓発は講演会・勉強会の実施に加えて、動画配信が実現し（現在も配信中）、世代を広げより多くの方に啓発が出来た。更に昨年度は、高齢者を支援する事業者への研修も実現したことで、普及啓発の担い手を広げるきっかけも生まれた。</p> <p>相談会は昨年度3回開催し、もの忘れに不安を持つ人の今の思いをきちんと受け止める場となり、参加した本人や家族から高い評価を得られた。更に相談して終わりにならないよう、必要に応じて区が持つプログラムや情報を提供し、支援に繋げることが出来た。</p> <p>上記の点から、事業3年目の昨年度も、軽度認知障害（MCI）に大切な「早期対応」「早期支援」の取組みとして活動が活かされ、意義高いものとなった。</p>
<p>6 昨年度の世田谷区提案型協働事業の効果など</p>	<p>(2) 昨年度の事業内容と比較して、新しい点や工夫した点など</p>	<p>協働事業最終年となる今年度も、啓発・相談・支援の基本的な柱は変えずにプログラムを実施し、MC I 勉強会、もの忘れが心配な方への相談会は、多くの区民に啓発と相談の機会を提供できるよう、継続開催する。</p> <p>●今年度の新しい点</p> <p>①支援の充実（新規プログラム開催）</p> <p>啓発・相談のプログラム参加者が「参加して終わり」にならないよう、もの忘れに不安を持つ人への支援を更に充実させるために、新たなプログラムとして「もの忘れが気になる人のための交流イベント」を開催する。先の(2)事業の内容でも述べたが、開催のねらいは、もの忘れに不安を持つ同じ思いをしている人同士が集まり、楽しむ時間を持つことで、認知症への不安や予防に縛られず、安心して地域で暮らしていけるようなきっかけをつくることである。楽しみながら、こころ・身体・脳が元気になるプログラム内容で開催する予定である。</p> <p>●工夫点</p> <p>①地域とのつながりを深める</p> <p>もの忘れに不安を持つ人・MC I の人たちが、住み慣れた地域でこれからどう安心して過ごしていくかの答えの一つとして、“横のつながり”づくりがあると考え。今年度新たに実施する交流イベントは、「地域の中での横のつながり」を意識し開催する。あんしんすこやかセンターやまちづくりセンター等にも働きかけを行なう予定である。</p> <p>②地域を広めた普及啓発の実施</p> <p>MC I 勉強会による普及啓発は、今まで開催可能な会場が限定されたこともあり、特定の地域でしか開催出来なかったが、今年度はまだ実施していない地域での開催を予定している。</p>
	<p>(3) 協働事業を継続する理由</p>	<p>今後も増える高齢者が抱える問題の一つとして、認知症は避けて通れない。早期発見・早期対応の重要性を考えると、多くの高齢者とその人達を支える側への知識や情報の提供、既にももの忘れに不安を持つ人や家族への支援は重要と考える。人口約92万人、うち高齢者人口約19万人の世田谷区の中で、高齢者が地域で安心して暮らすためには、一人でも多くの区民に対して長期的な視点での働きかけが必要と考え、そのためにも今年度も引き続き活動していく。その際、質の高いプログラムを区民に提供していくためには、当法人単独では限界がある。「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」を制定した区と協働で取り組むことで、区民に対してより強い発信力と区民の声を反映したプログラムの提供が可能となり、高い効果が得られると期待できる。</p>

[令和5年度提案型協働事業 様式]

		<p>また、今年度は協働事業最終年である。当法人は協働事業を卒業した来年度以降も引き続き事業の継続を予定している。協働事業のおかげで、広報活動、プログラム運営、動画配信や事業者研修のような効果的普及啓発の手段など、事業を効果的に進める上での知識や方法が蓄積されている。今年度も担当課のアドバイスをいただきながら、事業を継続するためのノウハウも蓄積していきたい。特に、「地域での横のつながり」は今年度一つのテーマである。今後地域の中で活動の輪を広げていくためにはどうしたらよいかを考えた際、あんしんすこやかセンターやまちづくりセンターなど、地域の拠点への働きかけも必要と考える。</p> <p>このような背景から、今年度も担当課と協働し事業の継続を希望する。</p>
--	--	--

事業収支予算書

【収入】

費目・内容	金額(円)	積算内訳
補助金	500,000	
自己資金	576,652	
合計	1,076,652	

【支出】

費目・内容	金額(円)		積算内訳	
	事業予算額	うち補助金申請額		
人件費	①(A)勉強会企画・準備・運営	151,800	0	①企画・準備 @1,000×35h×3回=105,000円(▲105,000円) 当日運営 @1,300×3h×12人(3回分)=46,800円(▲46,800円) ②企画・準備 @1,000×8h×3回=24,000円(▲24,000円) 当日運営 @1,300×3h×2人×3回=23,400円(▲23,400円) ③企画・準備・スタッフ研修 @1,000×80h=80,000円(▲80,000円) 当日運営(音楽担当専門スタッフ) @10,000×2人=20,000円(▲20,000円) 当日運営(その他スタッフ) @1,300×3h×10人=39,000円(▲39,000円) ④@1,000×36h(6種分)=36,000円(▲36,000円)
	②(B)相談会企画・準備・運営	47,400	0	
	③(C)交流会企画・準備・運営	139,000	0	
	④A・B各印刷物原稿作成	36,000	0	
	[小計]	374,200	0	
報償費	①(A)勉強会講師料	150,000	150,000	①浅見大紀氏講師料(企画・打合せ・準備込) @50,000×3回=150,000円 ②浅見大紀氏アドバイザー料 @50,000×3回=150,000円(▲75,000) ③全体プログラムリーダー謝礼(企画・打合せ・準備込) @50,000円×1回=50,000円
	②(B)相談会アドバイザー料	150,000	75,000	
	③(C)交流会プログラムリーダー謝礼	50,000	50,000	
	[小計]	350,000	275,000	
消耗品・備品費	①(A)(C)ビデオカメラ	68,000	50,000	①デジタルビデオカメラ(1台)=68,000円(▲1,8000) ※勉強会・交流会内での脳トレ・運動時のスクリーン投映・撮影用 ②ビデオカメラ用三脚(1台)=10,000円(▲5,000) ③コピー用紙2箱(20冊)=7,980円(▲980) カバーカバー @684×10冊=6,840円(▲1,840円) ④長3封筒代(名入り)1,000枚=12,669円(▲2,669円) ⑤ラベル100シート1冊=1,247円(▲1,247円) ⑥名札(100個)1,880円(▲880円) 筆記用具=(100本)=5,238円(▲238円) 資料持ち帰り用袋(不織布・100枚)=8,044円(▲44円)
	②(A)(C)三脚	10,000	5,000	
	③(A)(B)(C)配布物・案内状他用紙代	14,820	12,000	
	④(A)(B)(C)案内発送用封筒代	12,669	10,000	
	⑤(A)(B)(C)案内発送用ラベル代	1,247	0	
	⑥(C)交流会会場備品	15,162	14,000	
	[小計]	121,898	91,000	
複写・印刷費	①(A)(B)チラシ印刷代	29,154	14,000	①(A)チラシ印刷 4,859円(1,000枚)×3回=14,577円(▲577円) (B)チラシ印刷 4,859円(1,000枚)×3回=14,577円(▲14,577円) ②(C)チラシデザイン制作・印刷代(1回・1,000枚) 100,000円(▲50,000) ③(A)資料コピー代 @10×20枚×50部×3回=30,000円(▲30,000円)
	②(C)チラシデザイン印刷代	100,000	50,000	
	③(A)資料印刷代	30,000	0	
	[小計]	159,154	64,000	
郵送・広告・保険料	①(A)(B)(C)通信費(案内発送)	71,400	70,000	①(A)郵便代 @84×100通×3回=25,200円(▲200) (B)郵便代 @84×50通×3回=12,600円(▲600) (C)郵便代 @84×400通=33,600円(▲600)
	[小計]	71,400	70,000	
使用料・賃借料	[小計]	0	0	
交通費	[小計]	0	0	
その他	[小計]	0	0	
合計	1,076,652	500,000		

☆この事業収支予算書は、今回提案する事業に要する予算を記入するものです。団体の年間予算を書くものではありません。

☆日常の運営経費(団体等の日常運営の人件費、事務所賃借料、光熱水費、日常運営に要する消耗品・備品費等)は対象外です。

団体の概要

団体名	特定非営利活動法人語らいの家				
所在地	東京都世田谷区成城 4-3-23	電話番号	03-5429-8855		
		FAX	03-5429-8856		
代表者氏名	坪井 伸子		役職	代表理事	
事業責任者 ※住所、電話番号・ FAX、Eメールは 公開しません。	氏名	坪井 伸子		役職	代表理事
	住所				
	電話番号				
	FAX				
	Eメール				
設立年月 (活動開始年月)	平成 11 年 3 月 (特定非営利活動法人設立: 13 年 2 月)				
役員等の構成 及び社員数 (会員数)	役員 8 名 社員 (会員) 令和 4 年度会員数 113 名				
主な活動分野	《NPO事業》認知症家族相談会、認知症勉強会、MC I 勉強会、 認知症カフェ 高齢期を豊かに暮らすための回想法プログラム 《介護予防事業》筋力アッププログラム (世田谷区委託) 《介護保険事業》認知症対応型共同生活介護 (2 ユニット)、認知症対応型通所介護 (2 か所)、地域密着型通所介護 (2 か所) 訪問介護 (1 か所)、居宅介護 (2 か所)				
主な活動実績 *行政との協働 の実績を含む。	平成 11 年 3 月 ボランティア任意団体として「語らいの家」誕生 13 年 2 月 東京都より、特定非営利活動法人認可 14 年 認知症予防活動開始 通所介護「デイホーム語らいの家」開設 15 年 認知症の人とその家族を支える「家族相談会」開始 (継続中) 区民向け「認知症勉強会」開始 (継続中) 16 年 認知症対応型共同生活介護「グループホームかたらい」開設 1 人暮らしの高齢者が会食とおしゃべりを楽しむ「夕食会」開始 (継続中) 17 年 訪問介護「ヘルパーステーションかたらい」開設 18 年 高齢期を豊かに過ごすための「回想法」プログラム開始(継続中) 19 年～「認知症予防プログラム (パソコン・料理)」「 運動器機能向上プログラム」「回想法」の委託 東京都認知症支援拠点モデル事業開催 (サロン日ようび、あんしん 生活マップ、中学生のための認知症勉強会の開催) 20 年 居宅介護支援事務所「ケアステーションかたらい」開設 〃 「団塊世代の社会参加のための地域ニード調査」実施 次ページに続く				

[令和5年度提案型協働事業 様式]

	<p>21年 第6回日本認知症ケア学会・読売認知症ケア大賞受賞 22年 認知症対応型通所介護「サロンデイ語らいの家」開設 // 訪問介護「ヘルパーステーションかたらい成城」開設 22年 居宅介護支援事務所「ケアステーションかたらい成城」開設 // 「認知症早期発見・認知症の人及びその家族を支えるための支援事業」 (21年度協働事業) 23年 東京都信用金庫協会「特別奨励賞」 「たとえ認知症になっても安心して暮らし続けることができる街をめざして」(22年度協働事業) 24年 「中学生職場体験」開始(継続中) 25年 「認知症の人の介護実態調査」実施 // 8月よりデイホーム上祖師谷を認知症対応型に変更 26年 認知症カフェ「カフェサロンかたらい」開始(継続中) 世田谷区提案型協働事業「認知症の人とその家族を支えるための環境充実プログラム」(26年度～28年度) 29年 地域密着型通所介護「アクティブかたらい」開設 30年 地域デイサービス「ひまわり」開設 令和2年 介護予防・日常生活支援総合事業「オレンジかたらい」開設</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>団体の ホームページ</p>	<p>https:// www.npo-katarai.jp</p>

選定委員からの意見

事業名：軽度認知障害（MC I）および認知症予防を正しく知るための啓発事業Ⅳ

- 提案団体は、これまでの協働事業での実績と経験を踏まえ、区や地域の事業者とも連携しながら、潜在的な受益者を含め、本事業を必要とする対象者に適切にこの事業が届けられるような取り組みが求められる。
- 「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の「一人ひとりがともに安心して自分らしく暮らすことができる地域共生社会の実現」という目的を念頭に、本事業が当事者やその家族の啓発から、地域社会への働きかけへとつながるよう期待したい。
- 協働事業終了後を見据え、特定の個人に依存せずに事業が継続できる方策を模索してほしい。